

平成 30 年
第3回定例会号
第113号

11月1日発行
年4回発行



目 次

住みよいまちづくりへ 29年度決算認定	・ ・ ・ P 2～6
第3回定例会議案の詳細	・ ・ ・ ・ ・ P 7
村政のここが聞きたい 4名が一般質問	・ ・ ・ P 8～12
中学生が議会を傍聴	・ ・ ・ ・ ・ P 12
議会の動き	・ ・ ・ ・ ・ P 13
村の将来に向けて 議員行政視察	・ ・ ・ ・ P 14～15

十五夜お月見団子づくり（なかよし保育所）

お茶の間の議会情報誌

議会通信

Shinshinotsu Village Assembly Information

しんしのつ

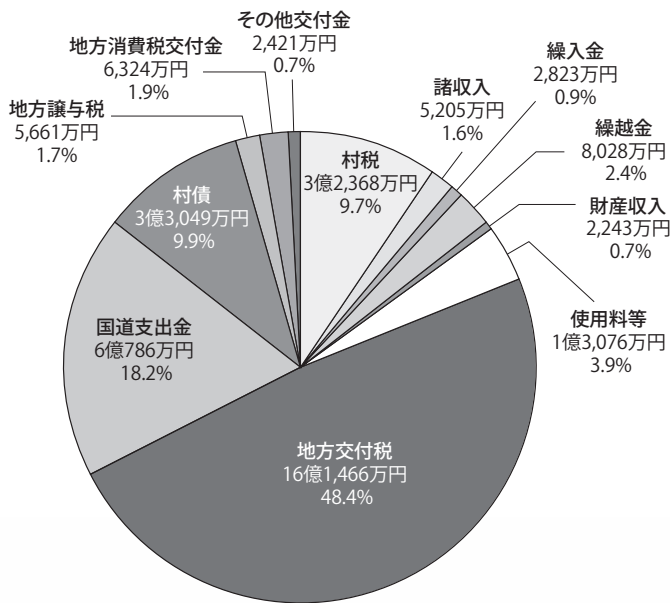
平成29年度 決算 住みよいまちづくりへ

ひまわり保育所・南団地建替えスタート

一般会計決算の内容

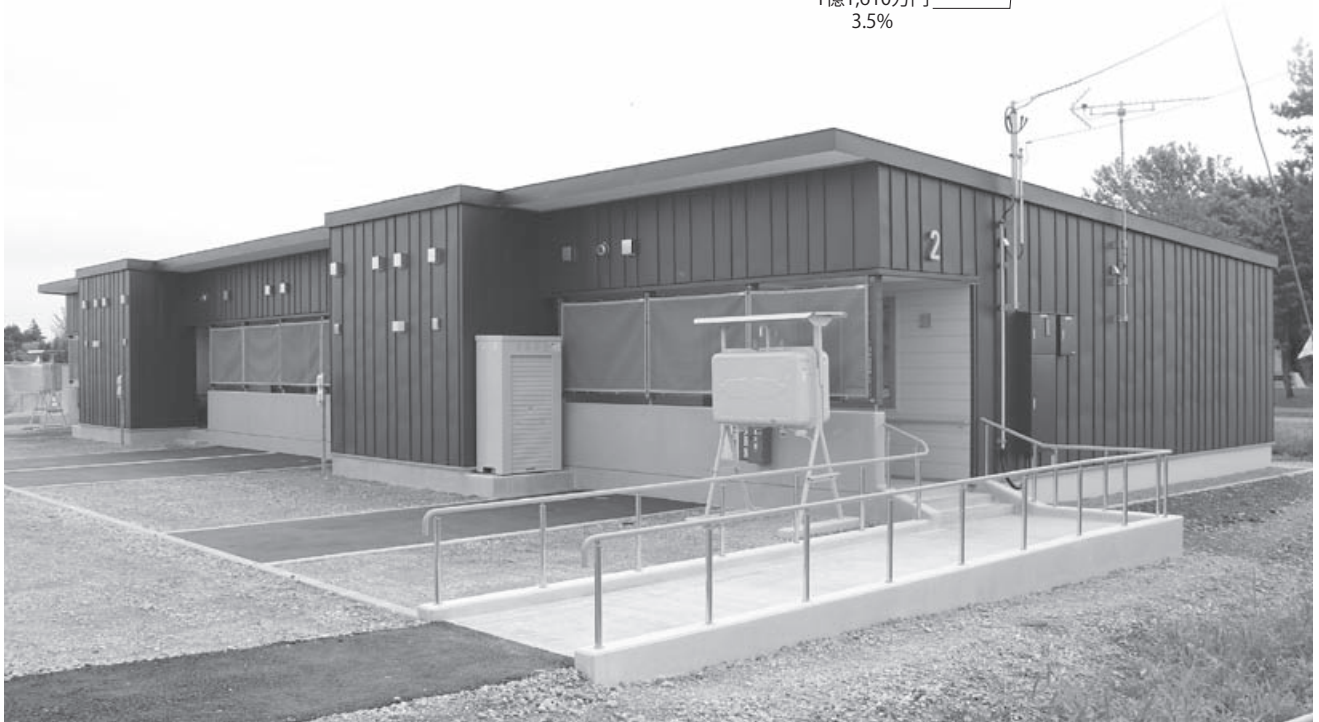
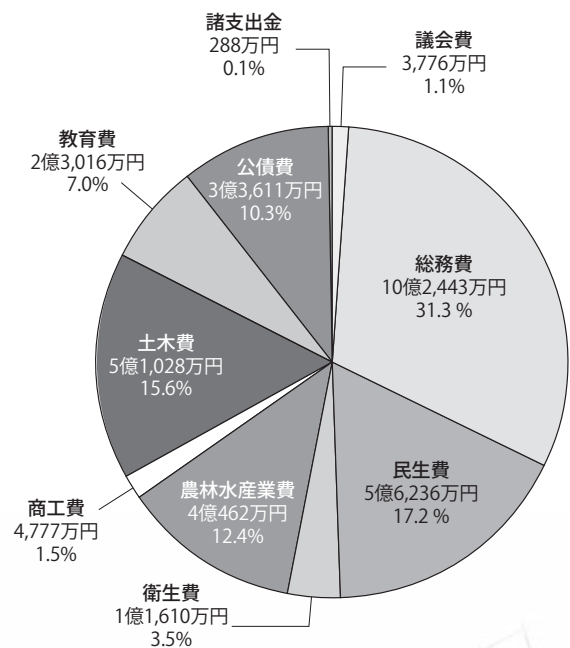
歳入総額 33億3,450万円

【歳入決算構成比】



歳出総額 32億7,247万円

【歳出決算構成比】



新しくできた公営住宅南団地（総事業費2億2,584万円）



夏の暑い日、水遊びをする
ひまわり保育所の園児たち



運動指導員の配置を開始した
B & G体育館トレーニングルーム

平成29年度 各会計の決算状況

会計名	一般会計	特別会計	特別会計			
			国民健康保険	農業集落排水	介護保険	後期高齢者
歳入	33億3,450万円	12億9,549万円	8億1,096万円	6,634万円	3億7,086万円	4,733万円
歳出	32億7,247万円	12億2,706万円	7億6,077万円	6,634万円	3億5,280万円	4,715万円
差引	6,203万円	6,843万円	5,019万円	0万円	1,806万円	18万円
翌年度繰越財源	1万円	-	-	-	-	-
実質収支	6,202万円	6,843万円	5,019万円	0万円	1,806万円	18万円

平成29年度 財政健全化判断比率

区分	実質赤字比率 (一般会計の赤字額が ※標準財政規模に占める割合)	連結実質赤字比率 (全会計の実質赤字額 が標準財政規模に占める割合)	実質公債費比率 (全会計の償還額が標 準財政規模に占める割 合)	将来負担比率 (将来一般会計から負 担されると想定される 金額等が標準財政規模 に占める割合)
新篠津村	なし	なし	4.9%	なし
早期健全化基準	15.0%	20.0%	25.0%	350.0%
財政再生基準	20.0%	30.0%	35.0%	-

平成29年度 資金不足比率

特別会計の名称	資金不足比率	経営健全化基準
農業集落排水事業	なし	20.0%

※ 標準財政規模＝標準的な税収、地方交付税、地方譲与税等自由に使える財源の標準的な規模を表します。

平成29年度の本村の標準財政規模は19億8,673万円。

■決算審査特別委員会

平成二十九年 度

一般会計ほか四特別会計の決算を認定

総務費

■藤永委員

ふるさと納税の返礼品の割合はどのぐらいか。

□山田総務課主幹

昨年、総務省から返礼品の割合は3割以下にするよう通知があったので、本村においても3割以下にしている。

■南部委員

温泉の日の助成金の実績は。

□石若総務課主幹

大人が3532人の500円、子どもは184人の250円で計181万2千

円を助成した。

■大塚委員

産直市場の裏の道路を整備し通り抜けられるようにしたことによって、野菜の搬入がうまくいくようになったか。

□石若総務課主幹

野菜の搬入は裏が一方通行になり、以前よりは搬入しやすくなった。



産直市場裏からの通り抜け道路

民生費

■植島委員

保育所関係の委託料の不用額について伺いたい。

□吉田住民課長

ひまわり保育所の運営が初年度であり入所者数の予測などが難しく、そのため例年より不用額が多くなっていました。

■大塚委員

乗合タクシーの利用実績は。

□吉田住民課長

運行日数は235日で、延べ利用者数は1846人の前年対比では598人の

減である。

■大塚委員

保育所のエアコン工事を行った効果について伺いたい。

□吉田住民課長

現場の先生方や子どもたちにも大変好評である。



各保育所に設置されたエアコン



山元 栄 委員長

平成29年度の新篠津村各会計歳入歳出決算が、監査委員の決算審査意見書とともに提出され、決算審査特別委員会（山元委員長・植島副委員長）を設置し、9月11日に審査を行い、審査の結果、認定となりました。主な質疑内容は次のとおりです。

衛生費

■大塚委員

予防費の中で色々な健康づくりの事業を行っていると思うが、講演会などの参加率を上げるためどのような取組を行ったか。

□吉田住民課長

農閑期の11月と3月に講演会を行っているが、例年に比べ参加者が少なかった。そのため、女性コミュニティなどの組織力のある団体と連携協議しながら、参加者が一人でも多くなるよう検討していきたい。

■高橋委員

キャンプ場を利用している人たちのごみの処理はどうなっているのか。

□金兵住民課参事

キャンプ場利用者のごみについては、利用者自らが持ち帰ることになっている。

■南部委員

北石狩衛生施設組合の負担金の内容についてと、今後新たに発生する負担金があるのかないのか。

□金兵住民課参事

し尿処理施設を廃止したことに伴う経費である。今後については、建物が残っているのをこれを取り壊すことになる、新たな負担が発生する可能性がある。

農林水産業費

■菊地委員

農業集落排水事業特別会計繰出金について、積算根拠はどうなっているのか。

□佐藤産業建設課長

農業集落排水事業会計で足りない部分を補填している額である。

商工費

■南部委員

縁結び応援隊について実態はどうなっているか。

□石若総務課主幹

現在、応援隊は9名が活動を行っているが、今後は皆様と共にイベントなどを企画し進めていきたい。

■藤永委員

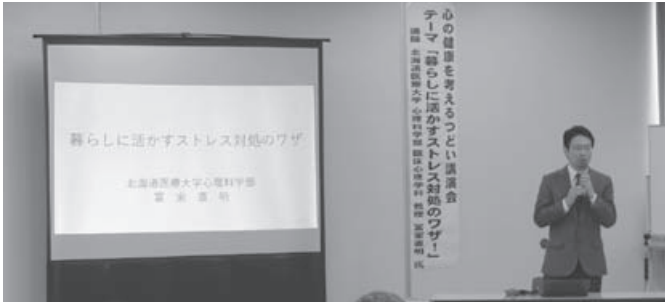
地域おこし協力隊の活動実績は。

□石若総務課主幹

観光協会・産直市場・たつぷの湯で勤務をしながら

ら、イベントなどにも参加している。

また、週1回集まり観光PRの方策を検討し、観光パンフレットや特産品のクッキーの開発を行っている。



3月に開催された「心の健康を考えるつどい」講演会



活躍中の地域おこし協力隊の3名
(左から河井さん、定宗さん、中木さん)

教育費

■大塚委員

中学校の部活動の遠征費について補助はどうなっているか。

□中井教育委員会主幹

中体連の全道大会については、全額補助している。他の全道大会については、半額の補助を行っている。



今年の中体連ではバドミントン部と卓球部が全道大会へ進出

■南部委員

はばたけ高校生応援支援金の実績は。

□中井教育委員会主幹

1か月5千円、年間6万円を、76世帯85名の高校生に支援している。

■藤永委員

ことばの教室の状況はどうか。

□中井教育委員会主幹

保育園児2名、小学生9名が通っている。子どもたちは教室に通うことにより年々成果が上がっている。



一般会計歳入全般

■南部委員

村税の全般について、滞納者への今後の取組について伺いたい。

□岡総務課主幹

滞納者に対して、督促状・催告、電話や自宅訪問、口座の調査を行いながら、納税への理解を求めていく。

■南部委員

住宅使用料について、収納率が前年度から下がっているが、今後の対応について伺いたい。

□佐藤産業建設課長

滞納者に対して、毎月、督促状や催告状を送付し、面談による分納相談などを行っている。

また、特に滞納状況が良くない方は退去を含めた相談を行い、28年度に2件の退去があった。その方たちに対し、過去の分について、

毎月の催告という形をとっている。

農業集落排水事業特別会計

■植島委員

農業集落排水事業の公債残高はどのくらいあるのか。

□五十嵐総務課財政係長

1億5381万5千円の残高であり、平成43年に償還を完了する予定である。



浄化センター

各会計歳入歳出全般

■藤永委員

村長にとっては初の決算になったが、所見を伺いたい。

□石塚村長

少子高齢化や人口減などの問題に、村として子育て支援、高齢者への各種事業など村民にしっかりと浸透しているかどうか検証し今後に生かしていきたい。

また、監査委員の指摘にもあったように、不用額の多い事業もあるので不用額が大きくなるような予算組みが必要である。

財政的には楽ではなく、大きな工事なども控えているのでこれからも職員一同、無駄を省き健全財政に努めたい。

平成30年 第3回定例会



定例会の 主な内容

予算

【平成30年度補正予算】

◎一般会計

歳出補正の主な内容
・石狩北部地区消防事務組合負担金

△105万円

・新高倉自治会館建設補助金

160万円

〈今回の補正額〉

△15万円

〈補正後の予算総額〉

39億2614万円

◎国民健康保険特別会計

歳出補正の内容

・国、道等返還金

1533万円

・財政調整基金積立金

3300万円

〈今回の補正額〉

4833万円

〈補正後の予算総額〉

7億433万円

平成30年第3回村議会定例会が、9月4日から14日までの11日間の会期をもって招集され、初日は平成30年度補正予算などの議案5件を審議し、全て原案のとおり可決・同意となりました。

会期中は、付託された案件を審議するため、行政常任委員会及び決算審査特別委員会を開催し、最終日にその報告を受け、それぞれ決定いたしました。その後、意見書案2件、議員発議2件を審議し、原案のとおり可決しました。

また、4人の議員から一般質問を行いました。

◎介護保険特別会計

歳出補正の主な内容

・国、道等返還金

1026万円

〈今回の補正額〉

1047万円

〈補正後の予算総額〉

3億9266万円

人事

◎教育委員会委員の任命

9月30日で任期満了となる教育委員会委員の山元裕樹氏（黎明）を引き続き任命することと同意しました。任期は平成34年9月30日までの4年間で、山元氏は2期目となります。



山元 裕樹 氏

一般議案

◎まちづくり総合計画策定審議会〈条例改正〉

まちづくり総合計画策定審議会委員の選出区分や人数の変更などに伴い改正する。

決算

◎平成29年度新篠津村各会計歳入歳出決算認定

平成29年度の新篠津村各会計歳入歳出決算について、決算審査特別委員会を設置し、付託の上、審議した結果すべて認定されました。

意見書

議員提案により意見書案が提出され、可決し政府関係機関等へ意見書を提出しています。

台風21号の暴風による農業・中小企業等の被害への支援を求める意見書

（提出者 南部議員）

請願・陳情書

請願書1件と意見書の提出を求める陳情書1件について、行政常任委員会に付託の上、審議した結果、共に採択となりました。

なお、地方自治法第99条の規定に基づき、政府関係機関等へ意見書を提出しています。

件名	提出者	結果
平成31年度経営所得安定対策及び主要農産物種子法廃止に伴う予算確保に関する請願書	新篠津村農業協同組合 代表理事組合長 西井 通泰	採択
林業・木材産業の成長産業化に向けた施策の充実・強化を求める陳情書	北海道森林・林業・林産業活性化促進議員連盟連絡会 会長 竹内 英順	採択

村政のここが聞きたい

一般
質問

～4人の議員から7項目を問う～

1 植島 豊 議員

- ①基線村道の舗装改修について

2 大塚 裕樹 議員

- ①子どものゲームの影響について
- ②本村の子どもたちへの農村ホームステイについて
- ③有害鳥獣被害対策について

3 菊地 清美 議員

- ①新篠津村高齢者福祉計画と障がい者計画の中の就労支援について

4 南部 隆志 議員

- ①在宅介護と健康寿命の推進について
- ②合葬墓について

平成30年第3回村議会定例会が9月4日から9月14日の11日間の日程で開催され、議会最終日、4人の議員が質問し、石塚村長や荒谷教育長に答弁を求めました。

一般質問

植島 豊 議員

Q 基線道路の改修計画は

A 他路線と同様に 舗装補修で対応

○植島議員 質問

基線道路が舗装となり、もうすぐ50年を迎えようとしている。村の土壌は泥炭地で、軟弱で浮き沈みが多く路肩部分が極端に下がっている場所もある。

そのため、35線から42線の区間について路盤改良し、

安全に通行出来るようにと思うが改修計画は。

○石塚村長 答弁

基線道路は、道路構造が道道規格となっており、防雪柵も古くはなっているが、設置されている。

路面については、経年による補修跡が重なり、あまり良い状態とは言えない。しかし、古い道道の規格ではあるが、路盤構成もしっかりしており道路改良ではなく、他路線と同様に舗装補修で対応していくが、特にひどい所については改良も検討していく。



41線付近の基線道路

一般質問

大塚裕樹 議員

Q 子どもたちの ゲーム環境への対策は

A ノーゲームデーの推奨と ゲームリスクの啓蒙強化

○大塚議員 質問

今年6月に世界保健機関(WHO)が、肺機能や持続力、体力の低下につながる可能性のあるゲーム障害について、ギャンブル障害と類似する症状があると

認定されました。

そんな中、北海道教育委員会では第1、第3日曜日は、ノーゲームデーというような取組を推奨している。本村は、隣近所の子どもも少なく、自宅にひきこもってゲームをしている子どもたちが多くいると思われる。

子どもたちに対して、ゲーム障害などにならないようご家庭を含めた取組がされているのか。また、今後の対策は。

○荒谷教育長 答弁

ゲームには、プラス面もマイナス面もあるが、長時間やり続けられ、マイナス面のみになってしまう。マイナス面の影響を少なくするために、限られた時間の中、他の活動とのバランスを取り、そして内容を選ぶことが重要となる。

学校でも、家庭学習の推奨や図書活動の推進等を行い、帰宅後の規則正しい生

活のリズムをつけるよう指導している。また、2年前から本村もノーゲームデーを推奨しているが、これからも強化していきたい。

最近、保護者の集まる会合などでも、ゲームのことについて話題が上がっているため、ゲームのリスクについてもっと啓蒙していかなければならない。

今後、子ども自身が選択できる力を培う環境を整えるサポートができるよう、保護者や地域と協議・協力して子どもたちを見守っていききたい。



ふれあい塾での「昔の遊び体験」

Q

村の子どもたちの
農業体験ホームステイは

A

子どもの発達段階に応じ
社会教育全体で検討

○大塚議員 質問

本村ではグリーンツーリズム連絡協議会が中心となって、高校生の修学旅行の受入れを行ない、一定の成果を上げている。村の子どもたちの多くも非農家であり、農家生活の良さも知らない状況にある。そのため村の子どもたちにも、実際に農村ホームステイを体験し、郷土愛や農業の素晴らしさを学んでもらう機会を作る考えは。



農業体験をする大阪の修学旅行生

○荒谷教育長 答弁

農業などへの教育については、小学校、中学校が連携をし、関係機関や地域の農業者などの協力を得ながら、年齢に合わせた取組を行っている。

本村の子どもたちへの農村ホームステイは、現在実施している各事業を精査、検証する中で、例えば通学合宿で農家に泊まることも可能だと思うので、こういったことも含め学校教育

Q

有害鳥獣被害対策に
助成する考えは

A

関係機関と連携し
被害防止対策を講じる

○大塚議員 質問

近年、エゾ鹿やアライグマ、キタキツネ、うさぎ等による農産物被害が拡大している。また、北海道全体でも被害が拡大傾向にあり、各自自治体も様々な支援を行って対策をしている。現在、駆除対策として予算措置をされているが、こ

だけではなく、社会教育全体で子どもの発達段階に応じた指導として、取り入れられるよう検討したい。

○石塚村長 答弁

れからは、他市町村の事例も調査研究して、一部助成なども含め支援の幅を広げることができないか。

村内ではアライグマやエゾシカなどによる農作物への被害が拡大しており、その対策として

電気柵が有効と考えるが、コストはもちらんのこと、対策を施した圃場からそうでない圃場へと被害が転移することは必ずであり、いずれば全ての圃場に設置せざるを得なくなる。予

想される。本年から、免許取得希望者に対し説明会を開催し、

また、第一種猟銃免許又は、わな猟免許の取得者各3名分の助成を予算計上している。今後は、新篠津村有害鳥獣被害対策協議会において、関係機関と連携し野生鳥獣に対する被害防止対策を講じていきたい。



捕獲されたアライグマ

一般質問

菊地清美 議員

Q 高齢者や障がい者の働きやすい環境整備を

A 江別市シルバー人材センターとの連携を進める

○菊地議員 質問

今の農業は機械化や高度化によって効率が最優先されている。高齢者の仕事は村の農業では「無」とも言える状況で、障がい者についても同じである。

村内で技術や経験豊富な高齢者が障がい者と共に職場を創り出し、仕事を提供し合ったりするには、地域内の「仕事の分かち合い」の思想が必要なのではないかと考える。

そこで、高齢者や障がい者にとって働きやすい職場づくりを目指し、今後、村として取組む考えは。

○石塚村長 答弁

高齢者の職場づくりの対応については、現在、江別市シルバー人材センターと連携して、本村の高齢者も対象となるように協議を進めている。

障がい者の職場づくりの対応については、新篠津福祉会を通して、就労支援を行っている。

村からの委託事業で高齢者世帯の除雪作業やペットボトル・空き缶、新聞紙などの資源ごみの回収作業を行っている。

村としては、障がい者の

一般質問

南部隆志 議員

Q 保健師の増員が必要ではないか

A 全体の職員数とのバランスを見ながら検討

○南部議員 質問

本村においては、がん検診、介護支援サービス、健

職場づくりのため、積極的に就労支援を行ってきたところであり、今後も、このような形で支援を継続していきたい。

康指導など、村民の健康寿命増進に寄与している事業がある。

それに携わっている事務方と現場を司る保健師の方々の大きく二手に分けて垣間見ると、保健師の方々も退職等で減少しているに
関わらず、補充がなされていないように思う。

今後、現場のより一層の活躍が必要となり、そのため、現場の人員つまり保健師の増員が必要ではないか。

○石塚村長 答弁

村では、誰もが心身ともに健康な生活が送れるよう、住民課や教育委員会が中心となり、村民の健康増進と予防活動に努めている。

そんな中、保健師の業務は多岐にわたってはいるが、現在は3名体制で業務を行っている。

今後の採用計画については、その時々の方針や定年退職者の状況を踏まえ、全体の職員数とのバランスを見ながら検討していきたい。



乳幼児健診の様子

Q

村営合葬墓を
建設する考えは

A

村民の意向を見極め
必要性について検討

○南部議員 質問

未婚や少子高齢化が進み
単身世帯が増加している現
在、先祖代々の墓じまいを
考えた時、家族親族への承
諾等の準備・手続き・費用
など、心身及び経済的にも
大きな負担が生じる。

また、それぞれの宗派、
神派などや個人の考え方が
あり、とてもデリケートな
問題である。

村民の中には、墓の管理
等で経済・将来的に不安な
日々を送っている方々も、
今後、増加する傾向にある

と思うので、このようなこ
とから、村として合葬墓な
どの建設に向けて検討する
考えは。

○石塚村長 答弁

村民の多くは、お墓や納
骨堂を所有しているものと
認識しており、村で遺骨の
収納数はどれくらい必要と
なるのかである。それによ
り、お墓の大きさが決まっ
てくるが、いずれにしても
高額となり大きな財政負担
となる。

また、管理も政教分離の
原則により、村では宗教的
な供養はできない。さらに
村内にある各寺院では、納
骨堂を整備しており、合同
での永代供養も対応してい
る。

そのため、まずは、寺院
の方々のご意見を伺いなが
ら、村民の意向を見極め、
その必要性について検討し
ていきたい。

新中3年生 村議会傍聴



新篠津中学校3年生24人
が、9月14日、平成30年第
3回村議会定例会（最終日）
を傍聴しました。

この日は最終日で一般質
問が行われ、生徒らは村民
の生活に関わる質問と答弁
を聞きました。

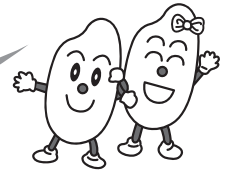
今回、傍聴した中学生よ
り感想を頂きましたので、
その一部を紹介します。

【議会傍聴の感想】

- ・ どの人も村のために話を
していた。
- ・ 大人が色々と考えてくれ
ていたのだと思った。
- ・ ゲームのことや自分の身
近なことがあって、ちょっ
と面白かった。
- ・ 議員の人がくつろいでい
てびっくりした。
- ・ 村の未来を考えての発言
が多い。
- ・ 難しい言葉がたくさん
あったけど、すぐく考え
ているのだなと思った。
- ・ 学校の議案審議とは全く
違う緊張感があった。
- ・ ここから、色々なことが
決まって動いていくのが
面白いと思った。

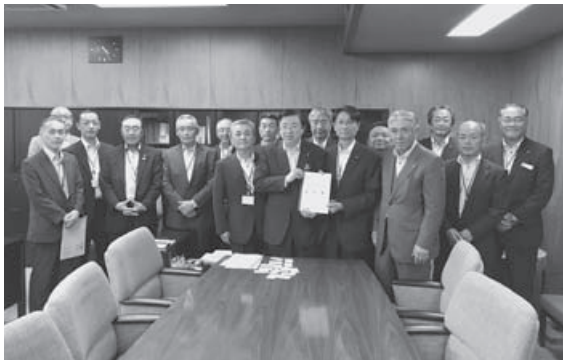


議会の動き



中央要請活動

9月19日、20日の両日、村内関係団体（村、J A、農業委員会、新篠津・篠津中央・新えべつの各土地改良区、商工会、福祉会）と合同で、藤永議長と高橋議員が上京し、国土交通省及び農林水産省、道内外選出国會議員に対し、中央要請活動を行いました。



9月19日、磯崎農林水産副大臣に意見書を提出

全道町村議会広報研修会

平成30年8月22日、ポールスター札幌で全道町村議会広報研修会が開催され、議会広報特別委員会委員4人が参加しました。

この日は、広報コンサルタント芳野政明氏が講師として「住民に読まれ伝わる議会広報の基本と編集」をテーマに講演が行われました。その後、道内10町村議会広報の診断及びアドバイスなどが行われました。



農作物作況調査

平成30年8月27日、農業委員会と合同で農作物の作況調査を実施しました。

今回の調査は、花卉、無代掻き稚苗移植、ブロッコリー、玉ねぎの選果場など村内6カ所を調査しました。



長山さん(西原)のブロッコリー畑

議会日誌

- | | | | | | | | |
|-------|------------------|--------------------|---|--------------------------|------|---------------------------------|----|
| 29日 | 27日 | 22日 | 8日 | 5日 | 〔8月〕 | 3日 | 3日 |
| 決算勉強会 | 議会運営委員会
議員協議会 | 全道議会広報研修会
(札幌市) | 議員道内視察研修
(～10日、北斗市・知内
町・福島町・厚沢部町) | 北海道150年記念式
典
(札幌市) | | 「一村の日」記念村民の集い | |
| | | | | | | 第3回村議会定例会
(～14日) | |
| | | | | | | 議会広報特別委員会
行政常任委員会 | |
| | | | | | | 決算審査特別委員会
第3回村議会定例会
(最終日) | |
| | | | | | | 意見書提出(中央要請)
(～20日、東京都) | |
| | | | | | | 議会広報特別委員会
所管事務調査
議員協議会 | |
| | | | | | | 〔10月〕 | |
| | | | | | | 29日 | |
| | | | | | | 19日 | |

むらへの将来に向けて

議会議員行政視察

8月8日から10日の日程で、北斗市・知内町・福島町・厚沢部町で行政視察を実施しました。この視察は、議員一人一人が村の課題・将来への政策を考え、希望する市町村の中から、今回の4市町に決定しました。視察を行った各事業の概要と議員の感想を報告します。

北斗市

【無料職業紹介所】

平成18年度より、労働力不足と雇用対策の一体的な取り組みとして開設し、市内の農林漁業者と市民を対象とした短期就労のあっせん業務。

●山元議員

農業関係の求人申請は時期が集中する。さらに不定期とあっては、人が集まりにくい面もある。

ただ、市自体が労働力不足対策に直接対処しうる画期的事業と理解した。



北斗市庁舎にて事業概要などの説明を受ける

【スポーツ合宿誘致制度】

平成22年に運動公園の陸上競技場を第4種公認の全天候型トラックにリニューアルしたのを機に、スポーツ合宿誘致によるまちづくりの取り組みを開始。

●植島議員

宿泊先は民間の宿泊施設が大半を占めていることから、経済効果が期待される事業である。



北斗市郷土資料館を視察

知内町

【ものづくり産業振興事業】

地域産業の中核をなす、ものづくり産業・商業・観光産業を強力に推進することとし、「知内町ものづくり産業振興条例」を制定。

●大塚議員

国や道に頼るのではなく、独自に事業運営するのを目指す。

的が明確であり、その目的は町の維持や発展に直結しているの、素晴らしい取組だと感銘を受け、本村の行財政へのヒントがあった。

●南部議員

事業としては、町の単費事業が多いため、3年間で基金の6割を消化するなど、財源確保が課題として大きいと思われる。同時に、目標計画が立てにくいと思われる。



ちょっと暮らしや新規就農者の短期暮らしとしても活用される地域産業担い手センター

福島町



【議会改革関係】

議会基本条例を定め、その中で「議会・議員としての使命と責任を強く自覚し、主体的、機動的な議会活動を実践し、町民の負託にこたえ、豊かなまちづくりのために不断の努力を続けなければならない。」と規定。その実効性等を明らかにするため、1年間の議会活動の実態や問題点などを「福島町議会白書」として作成。

●藤永議長

今回の視察依頼の時点から事前研修資料が送られ、全議員が圧倒された所から研修が始まった。

研修は事前に質問事項が要求され回答まで頂き、当日も含めて緊張感の有る研修となった。

開かれた議会づくりの歩んだ軌跡が小冊子となりその真剣な取組みの歴史を感じた。

●大塚議員

福島町議会のご配慮により、事前に資料を頂き下調べもでき、非常に有意義な研修になった。

色々と厳しい課題もありますが、しっかりと議論を重ね、議会活動や運営を行うことの重要性を感じた。

3時間にわたりご説明対応をしていただいた、福島町議会鳴海議長様と

厚沢部町

【移住定住事業】

「素敵な過疎のまちづくり基本条例」を制定し、「過疎」を受け入れた上で、住んで良かった、「いつまでも住み続けたい」と思える、個性豊かな「素敵な過疎のまち」の実現を目指す。

●山元議員

どこの町・地域も、かなりの財政出動をして、人口対策・定住促進対策をしているが、なかなか目に見える効果が上がらない。

住宅建設資金支援・結婚成立祝い金・出産育児祝い金・医療費助成等々、切れ目無く支援が続くのだが、果たして「人の心に虹が架かる政策とは、どのようなものなのだろうか」様々、考えさせられた。

【厚沢部町総合給食センターの視察】

北海道初となる設計・施工・調理業務・配送業務を一括して行う「DBO」方式により整備された。さらに、多様化するアレルギー食に対応するための専用調理室や災害時に炊き出しができる防災機能も備えた施設。

●菊地議員

学校給食・保育所給食・高齢者給食を1か所で実施する施設で、学校・保育所の献立作成・食材調達・調理・配達・施設管理は民間委託となっている。モデル事例として参考となる。

●高橋議員

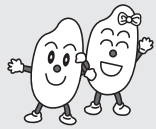
行政視察を終えて感じたことは、どの町村も同じ問題を抱えていると思った。



最大20食調理可能なアレルギー対応の調理室



防災対応も強化されている総合給食センター



新篠津村議会 ～今後の予定～

平成30年第4回臨時会

11月22日(木)予定

平成30年第4回定例会

**12月6日(木)
～12月14日(金)予定**

表紙のコメント

9月21日、なかよし保育所の園児10名が十五夜のお月見団子づくりをしました。

園児らは先生のお話を聞いた後、白玉粉と豆腐をかき混ぜこねてから、丸める作業をしました。茹で上がったお団子を食べると「おいしい」と歓声を上げ、皆笑顔でした。



議会一口メモ

決算認定とは

予算が、一会計年度における収入と支出の見積りであるのに対して、決算は収入と支出の実績と結果です。

決算の認定とは、予算がどのように使われ、どのような成果をあげたかを住民の立場に立って判定することであり、翌年度以降の予算案に関する審議を行うための、参考となる情報や判断材料を得るという点においては、議会の重要な権限です。

今定例会においては、前述の記事(2～6ページ)のとおり、決算審査特別委員会に付託された5会計すべてが、認定となりました。

決算認定までの流れ

3月31日 会計年度終了



5月31日 出納閉鎖

- ・会計管理者が決算書を村長に提出
- ・監査委員が決算書を審査し、村長に意見書を提出



9月定例会 審査

- ・村長が監査委員の意見書を添えて認定を求める
- ・議会は、決算が適正か審査・確認し、認定する

編集後記

今年台風と地震の被害を受けました。被災されました皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

地球の表面で文明を築き、生き物の中で一人勝ちのような人間ですが、台風や地震動、津波、地滑りなど、地球にとってはめずらしくない出来事には無力です。

建造物を壊され命を奪われます。うちひしがれながらも再建し、命と社会をつなぎ続けています。人間って弱いけど人間社会は強いと思います。

初体験のブラックアウト(大規模停電)は電気の配線網が情報の配線網であることを、気づかせてくれました。

電気がストップしても2、3日は地域及び自家で発電できる備えをし、電気事業者におまかせしすぎないことが、今後の災害対策と知りました。

(菊地 記)